



協働 いちかわ

平成 27 年度

市川市新庁舎建設

市民ワークショップ報告書



平成 28 年 2 月 17 日

市川市新庁舎建設市民ワークショップ参加者一同

市川市長 大久保 博 様

市川市新庁舎建設市民ワークショップ 参加者一同

私たちは、新庁舎に市民活動支援スペース（仮称：協働テラス）が設けられることを発端として、市川市の協働のあり方について考えるべく、当ワークショップに参加しました。

4回にわたるワークショップを通じて、協働とは何かということや良い協働・悪い協働などについて行政の職員を交えて議論し、課題や解決策を検討してきました。

その結果を実効性のあるものとするために、市民が考える協働の理念を、具体的な条件として形にしたものです。

この理念を受けた行政が、市民の思いを理解して寄り添い、共に考え実行し変わっていくことが、新たなる協働のはじまりになると考えています。

市民と行政が信頼関係を築き、共に手を携えて市政を進める礎となることを期待し、ここに報告いたします。

《 協働の理念のキャッチコピー 》

きょうどう
働働 / 今日 do? いちかわ

【キャッチコピーに込めた思い】

「協働」の「協」という字は、「力」が上下に並んでいることから、力の差や上下関係を表しているように感じられることに着目し、協働を進め、継続していくためには、誰もが同じ立場に立ち、手を取り合うことが必要だという思いを、「力」を横並びにすることで表現しました。

また、「今日 do（どう）？」というフレーズには、「今日の調子はどう？」・「今日やろう！」という気軽な声かけの意味が込められており、協働を広げていくには、これまで協働に関心がなかった人や壁を感じていた人が、気軽に参加できるような関係を築くことを目指すべきという思いが込められています。

そして、これらの「きょうどう」を実行する対象として、市川市に関わるすべての人を「いちかわ」ということばで表したものです。

《 協働の基本的な条件 》

1. 市川市に関わるすべての人が互いを尊重しながら同じ円卓について取り組む

住民だけではなく、在勤者・在学者や市川市で市民活動をしている人など、市川市に関わるすべての人を「市川市民」と考えました。これらの人が、お互いの立場や抱えている思いを理解することで、相手を尊重する心が生まれます。その心を持って、分け隔てなく同じ立場で取り組むことを、協働の前提条件とします。

2. 子どもから大人まで誰もが気軽に参加できる

これまで市民や行政の取り組みに壁を感じていた人が、気軽な気持ちで加わることができる雰囲気づくりをすることが必要だと考えました。そこで、市川市の将来を担う子どもから、大人まですべての世代の人が参加できて、「今日 do(どう)?」と声を掛け合えるような気軽な関係を築くことを目指します。

3. 市民が主体で、行政は市民ができないことを補完する

市民は、当事者意識を持ち、問題を人任せにしないよう心がけます。行政は、市民ができることまで手を伸ばそうとせず、できないことを補うことで、市民の主体性を育てよう務めます。

4. 市民ならではの気づき、発想を大事にする

行政が、市民の小さなつぶやきを取りこぼすことなく、皆で分かち合おうとする姿勢を持つことを願います。私語（つぶやき）の中から生まれたことを皆で共有し、それぞれができることを持ち寄ることが協働の第一歩になると考えます。

5. 課題・目的が共有される

市民活動や行政が行う事業の問題背景から課題・目的を共有することで、市民と行政が手を取り合って協働を行うきっかけが生まれます。

6. 情報が公開され、共有される

最低限の情報を公開するというやり方ではなく、行政や市民活動の事業内容・過程・結果やそれらに対する評価について、適切な時期に、必要な量が公開されることが、行動を起こすことに繋がります。

7. 評価に基づき、物語のように進展しながら広がっていく

市民活動や、市民関わった行政の事業に対して、その参画度も含めた評価を行うことが、協働事業が立ち消えることなく継続していくために必要です。Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Act（改善）の4段階を繰り返すPDCAサイクルをつないでいくことによって、協働事業が進展し、広がっていく体制を作ることが求められます。

8. 協働を育むコミュニケーションのしくみと場をつくる

上記1～7の条件を実践できるしくみと場が、新庁舎に整備される市民活動支援スペース（仮称：協働テラス）をきっかけに市内全体で醸成されていくことを期待します。

■新庁舎建設市民ワークショップについて

1. 平成 27 年度ワークショップの目的とテーマ

平成 32 年に供用を開始する新第 1 庁舎に設けられる「市民活動支援スペース（仮称：協働テラス）」の実現に向け、平成 26 年度市民ワークショップ参加者からの要望を受け、ワークショップが開催されました。

平成 26 年度は、「協働テラスを中心とした市民スペース」の「コンセプト」や「配置計画」等について議論を行い、ワークショップにおける意見が設計に反映されました。今後、このスペースの運用について検討していくために、平成 27 年度は、市川市の“協働”について考えました。

【 テーマ 】

協働のあり方について考えよう

2. 開催結果

	開催日時	議 題
第 1 回	平成 27 年 10 月 3 日	・ワークショップの目的と現状を知る ・良い協働・悪い協働について考える
第 2 回	平成 27 年 11 月 14 日	・悪い協働の原因を考える ・協働の壁を解決するために必要なことは何か考える
第 3 回	平成 27 年 12 月 19 日	・悪い協働の解決策を考える ・協働の理念を表すことばを考える
第 4 回	平成 28 年 1 月 30 日	・市川市の協働の理念をまとめる

※開催報告書（新庁舎建設市民ワークショップ通信）は付属資料のとおり。

3. 市民ワークショップ参加者名簿

(敬称略)

■参加者

グループ	氏 名				
A	公募市民	高木 彬夫	斎藤 雅敏	南雲 靖	
	団体推薦	宮崎 富喜子			
B	学 生	花蜜 ユカ (特定非営利活動法人いちかわ子育てネットワーク)			
	公募市民	大津 祐佳			
	団体推薦	森田 達郎	小林 大介	井澤 智子	
C	学 生	幸前 文子 (特定非営利活動法人いちかわ子育てネットワーク)			
	公募市民	山崎 文代 (特定非営利活動法人市川市ボランティア協会)			
	団体推薦	平床 健太			
D	学 生	佐藤 信彦	福田 菜花	堀米 里史	
	公募市民	川上 幸延			
	団体推薦	渡慶次 康子 (特定非営利活動法人いちかわ子育てネットワーク)			
E	学 生	齋藤 道子 (市川市自治会連合協議会)			
	公募市民	安田 俊也	山藤 勝巳	荒井 由里	
	団体推薦	永井 久夫	前原 紗樹		
F	学 生	伊深 柁貴			
	公募市民	竹中 隆昌	加茂 佑磨	塩路 いく子	
	団体推薦	買場 都明			
F	学 生	白井 一美 (特定非営利活動法人いちかわ子育てネットワーク)			
	公募市民	浜田 一秀	早川 良美	隈部 直子	
	団体推薦	栗山 由加			
		天野 敏男 (特定非営利活動法人市川市ボランティア協会)			
		阿部 純三 (市川市自治会連合協議会)			

■メインファシリテーター

千葉大学大学院園芸学研究科 教授 木下 勇

■職員ファシリテーター

メインファシリテーターである木下勇教授を講師に迎え、全3回の日程で開催された「職員ファシリテーター研修」を受講した職員が、各回のファシリテーターを務めるとともに、グループでの議論に参加しました。

総務部 総務課
五味 敬浩

企画部 企画課
石川 慎一 大杉 智和

企画部 行財政改革推進課

佐藤 靖彦 内藤 友貴

財政部 管財課

山内 智博

市民部 地域振興課

稲垣 郁子 小泉 泰夫

市民部 ボランティア・NPO課

佐久間 剛 矢萩 淳史

こども政策部 子育て支援課

高井 恭子

生涯学習部 中央図書館

小川 健太郎

街づくり部 新庁舎建設課

松山 直樹 酒井 佳奈子 大久保 雅彦

小林 良二 三浦 善信 土屋 成祥

■事務局

街づくり部 新庁舎建設課

瀧上 和彦 高橋 均 品川 貴範

鶴見 陽助 有田 佳乃子

4. メインファシリテーターからのコメント

平成 26 年度の新庁舎の協働テラスのあり方を検討したワークショップの最終成果の提言の中に、引き続き「協働のあり方」について検討することが提案され、それを受けて平成 27 年度も 4 回のワークショップが開催された。参加された市民の熱心な作業の結果、たいへん独自性のある市川らしい協働の理念が提案されたことはすばらしい成果である。

このワークショップは初めての試みとして市川市の職員がファシリテーターをつとめた。それは市民の声を聞くことができる職員となるように、職員自身が協働の担い手として変化して、新庁舎が立ち上がる時にはそういう新しい時代の協働の担い手の職員が増えていることを期待してのことである。そのためワークショップに先立って職員のファシリテーター研修を 3 回ほど行なった。本番の市民ワークショップではその研修を受けた職員も緊張しながらもファシリテーターの役割を担い、ぎこちなさもあったが、それを参加者の市民はあたたかく見守り、まさに市民と行政の協働でつくりあげた提案となった。これは市川方式と言ってもよい画期的な協働の方式ではないだろうか。

ワークショップは 4 回であるが、かなり濃密な意見が交わされた。それはどの参加者も真剣に無駄な時間を過ごしまいと、積極的に取り組んでくれたからである。平成 26 年度の新市庁舎の協働テラスを中心とする市民スペースのあり方（理念）については「フラふらっと!!市役所 ～出会いと発見の寄り道広場～」という標語で表された。今年度の協働のあり方（理念）はそれを引き継ぐ形で「働働/今日 do? いちかわ」と気楽に声かけ、人がつながる期待が込められたものである。

この気楽な雰囲気、楽しく市民ワークショップが引き続き開催され、新市庁舎のオープンと同時に市民と行政の新しい時代の協働が展開されることを期待する。

■ きのした いさみ
木下 勇

千葉大学大学院園芸研究科 教授（専門 都市計画）

著書に『ワークショップ～住民主体のまちづくりへの方法論』等。職員ファシリテーター研修講師および、本ワークショップメインファシリテーター役を務めた。